

親代わりのトロイヤー夫妻

いま自己の人生を振り返ってみると、ICU から受けた恩恵がいかに大きいか、ひしひしと身に沁みて感じる。とくにトロイヤー教授ご夫妻から直接受けたご恩、影響は筆舌に尽くしがたい。教授住宅のボイラーマンのアルバイトをして、ご夫妻の人格、優しさ、愛情にどっぷり浸かって、キャンパス生活ができたことは、無上の幸せだった。

トロイヤーご夫妻はイエス・キリストの愛の教えを身をもって実践されていた。それまでは親の愛も知らず、生きていくのが精いっぱいだった。愛に飢えていたというか、愛とはなにかも知らなかった孤独な私にとっては、愛と善意に溢れた ICU コミュニティはまさにこの世の楽園だった。

入学当時は基督教に多少の関心、興味を持っていた程度だった。人間的、人格的に素晴らしい先生方、先輩、同輩に囲まれ、とくにトロイヤー教授ご夫妻の感化を受けて、それまで劣等感の塊で、固く閉ざされていた心が大きく開いていった。人間的にも生まれ変わって、キリスト者として大きく成長することができた。

トロイヤー教授ご夫妻は私にとっては親代わりの存在だった。ICU 教会で行われた結婚式では、両親の役をしていただいた。ご夫妻は自分の息子の結婚のように喜んでくださった。1997 年にご夫妻が亡くなられたことを知ったときには、涙がとめどなく流れた。いまもこの文章を書きながら、流れ出る涙でパソコンのスクリーンが曇って見えるほどだ。

『ICU 3 期生 卒業後 50 年の歩み』より